

史料

近江商人西川利右衛門家の店則

上 村 雅 洋

西川利右衛門家は、八幡の新町に本家を置き、畳表・縁地・蚊帳等の行商を始め、寛永年間（1624～44）に大坂瓦町1丁目（近江屋八左衛門）、正保2年（1645）に江戸日本橋通2丁目（大文字屋嘉兵衛）に出店を構えた近江商人である¹⁾。一族には、西川庄六家・西川仁右衛門家・西川徳藏家などを輩出した²⁾。西川利右衛門家の奉公人は、天保16年（1845）には八幡の本家（本店）には主人をはじめ5人の家族以外に、10人の店方奉公人と2人の男奉公人、そして9人の下女の合計26人が居住し、江戸店には28人、大坂店には11人、備中早嶋店には6人の奉公人がいた³⁾。これらの店に居住する奉公人生活の一端、別家に際して渡された元手銀、奉公人が引き起こした不調法に対する処分方法などについては、すでに拙稿⁴⁾において明らかにしたので、参照されたい。

ここでは、西川利右衛門家に残された多くの店則の中から10点の店則を選んで、紹介する。そのうち最も古い店則は、宝暦9年（1759）正月の「掟書」〔史料1〕であり、ほぼ年代順に明治18年9月の「大坂店仕法書」〔史料10〕まで掲載した。〔史料7〕〔史料8〕〔史料9〕については、ほぼ同文の店則も数点あったが省略した。また、冒頭部分しか存在しない「掟書」なども見られたが、これも掲載を見合わせた。ほかにも、見落とした店則があるかもしれないが、今後機会を見て捕捉したい。

これらの店則からは、火の用心、帳簿の取り扱い、蔵の管理、外出・着類・習い事の規制、開店・就寝時刻、新規事業の禁止など奉公人をめぐるさまざまな細かい取り決めがなされていたことがわかる。これらの店則は、その時々状況に応じて改定がなされたり、新たな取り決めがつくられたりしていった。こうした店則の指針にもとづいて、奉公人の日常行動が本家によって規制されていたのであり、それを周知徹底させるために、店内において毎月定期的に読み聞かせが行われた。

-
- 1) 近江八幡市史編集委員会編『近江八幡の歴史』第5巻 商人と商い（近江八幡市、2012年）40頁。ほかに、西川利右衛門家の概略については、江南良三『近江八幡人物伝』（近江八幡市郷土史会、1981年）45～49頁。江南良三『近江商人列伝』（サンライズ印刷、1989年）190～196頁を参照。
 - 2) これら分家による西川利右衛門家の家政改革については、拙稿「近江商人西川利右衛門家の相続と分家」（滋賀大学経済学部附属史料館『研究紀要』第46号、2013年）参照。
 - 3) 拙稿「近江商人西川利右衛門家の奉公人」（『同志社商学』第63巻第5号、2012年）。
 - 4) 拙稿「近江商人西川利右衛門家奉公人の諸相」（同志社大学『経済学論叢』第64巻第4号、2013年）。この中でも、西川利右衛門家の店則について、簡単に紹介しているので参照されたい。

凡例

- 一本史料は、近江八幡市立資料館所蔵の西川利右衛門家文書であり、そのうち店則を翻刻した。
 一翻刻にあたっては、適宜読点を付し、使用字体は常用漢字を用い、それ以外は異字・俗字・略字もなるべく原文のままとした。
 一仮名文字は、江・而・者・茂以外は、すべて現行の字体に改めた。
 一印刷にさいしては、なるべく原本の体裁をとどめることを原則としたが、組版の都合上一部改めた。
 一虫損・破損などによって文字が判読できない場合には、字数を推定して□で埋め、字数が推定できない時は、□ □をもってその箇所を示した。

〔史料1〕

掟書

- 一近頃支配人を始 □ □ 致在宿候 □ □ も無数、勿論仕入□買先キ之相談等も無之由
 □ □ 之者 □ □ 儘ニ致他出候ゆへ自然と □ □ 相成終ニ者、其身之越度と成、其上親兄弟ニ難儀をかけ、至而我身を失ふ事何分済不申事ニ候、依之此後為相統之、此度左之通相改候事
- 一支配人二番目毎 □ □ 入念并見世家内之しまり気を付可申事
- 一 □ □ 諸帳面帳箱江かたつけ可申事
- 一昼夜ニ不限無断我儘ニ罷出候儀堅ク成不申候、尤仲間内近所へ出候節者見世ニ居合候ものへ断、其外遠方江参候ハ、後見并支配人二番目右三人之内江相断罷出可申事
- 一夜ニ入候ハ、堅ク他行致間敷候、万一用事有之 □ □ ハ、前書之通ニ相断可申候、たとへハいか様 □ □ 候とも四つ限ニ帰り可申候事
- 一夜中用事無之候ハ、四つ限ニ相休、翌朝随分はやく両見世とも明ケ可申事
- 一夜分売場ニ表出置候事、火之用心悪敷、殊ニ急火之節忤者甚こんさついたし候 □ □ 間、いか様之用事有之候とも、暮方工面次第ニ急度取組廻可申事
- 一着類之儀者、支配人江無断我儘ニ拵候義かたく相成り不申候事
- 一仕入方并売先キ之儀、毎夜互ニ申談、次々江も能々申聞せ無油断相働キ可被申候事
- 右之趣銘々為相統之候間、急度相守可被申候、万一不得心之者有之候ハ、其断を立、江弼本店ニ而相勤メ可申候事

宝暦九年卯正月

西川利右衛門㊤

中嶋藤助㊤

大坂店中

〔史料2〕

(表紙)

「掟書」

掟書

- 一此度家内末々無別条為相続五ヶ歳之内儉約、左之趣相談之上相認候事
- 一従御公儀様御法度之儀不及申公用丁用太切ニ相守可申事
- 一専一火之用心并土蔵其外メり毎夜無懈怠仁右衛門并見世之者召連吟味可申事、若仁右衛門他出之砌、利左衛門江申置、右相勤させ可申事
- 一此度本家株隠居株并遣物銀仕分ヶ候ニ付、是迄と違万端家柄格式引下ヶ并諸入用等、右ニ順シ格別相減シ候様家内申合、無滞相続被致候儀第一秀応江之追善不過之候、尤了岸様ろ秀応江御譲之砌如此ニ候、依之此度左之趣勤方差図申候事
- 一此度六兵衛後見相勤可被申候与八儀ハ、無滞相勤申候ニ付、此度別宅之上右加役相勤可被申候
- 一右兩人之儀ハ、江劬名代之事ニ候間、平日太切ニ申合家内万端メり方指図いたし可被申候
- 一七右衛門儀、右兩人ろ何角要用相談等可有之候間、万端被申談奥并見世之儀右兩人同様ニ心添可被申候、万一不能了簡ニ儀在之候ハ、三人名前を以江州表へ相尋被申指図を請候而取斗可被申事
- 一六兵衛儀ハ、惣勘定并諸証文伊勢屋通金銀并買置物引受相勤可被申候、尤已後買置物ハ末々堅無用
- 一与八儀ハ、支配役代七兵衛相勤可申候、并見世勘定德意先仕入方掛屋鋪修覆家賃銀引受相勤可被申候、尤右要用并帳合并店賃集メ商内用書状取引等、六兵衛、与八兩人随分仁右衛門、利左衛門へ見習之ため相勤させ可被申候
- 一朝飯後仁右衛門利左衛門見世へ出勤可申候、尤壱人宛ハ急度相詰可申候、商内駄要用差図を請、随分太切ニ相勤可被申候、尤帳面等見世ニ而取扱可被申候、勿論見世之者同様ニ身引下ヶ相勤可申事
- 一誰レニ而茂見世壱人ニ而ハ相済不申候間、奥ニ無抛用事候共、子供ニ而も今壱人出勤申、是悲共二人ハ相詰候様ニ可被致候、尤年数之子供随分見世ニ置、商内見習セ可申事
- 一誰ニ不限用事ニ付他出候共、暮方ニ罷帰可申候、夜分用事候共四ツ限ニ罷帰可申候、万一無抛用事有之節ハ、其訳相断参り可申事
- 一夜分四ツ時人数改相揃候ハ、相休可申候事、勿論朝ハ随分早ク両見世明ヶ、見世ろ奥之者無怠り戸をたゝき起させ候様人々氣を付可申事
- 一自今世間つき合随分差扣へ新規ニ付キ合相求申間鋪候、尤筆跡謡ハ格別其外稽古事堅無用ニ候、琴鼓之儀ハ秀応居士免被置候事故其分ニ致置候、乍然儉約之砌ニ候得ハ相慎稽古可申事
- 一仁右衛門利左衛門盆正月并五節句礼之砌、其外見舞并振舞等何方へ参り候共、衣服之儀冬分

ハ紬又ハ太織青梅嶋，羽織之儀も右同様たるへく候，夏分ハ奈良嶋奈良晒，羽織之儀も秩父又ハせんし等之羽織，右已上之物ハ下地有合候共，五ケ年之内決而無用之事

附り，平生ハ木綿衣服絹裏類堅無用

一おとみ，おいさ，おミを，衣類之儀男子カ格別銀高之物ニ有之候得ハ，五ケ年之間堅拵申間鋪事

一儉約第一之儀ニ候得ハ，衣類五ケ年之間絹類之物一切拵申間敷候，万一無扨入用之物ハ，江州ヘ相尋拵可申候

一おいさ，おミを，何方ヘ出候共，五ケ年之間かすき着用致間敷候，盆正月之儀ハ相談之上取斗ひ可申事

一御医者之儀，男女小兒共宜キ方壺人ヘ相頼候事，尤太病之節ハ相談之上可為格別候事

一本綿類并袖口半衿糸類其外小間物入用之砌，与八ヘ相談之上相調可申候，并諸買物青物ニ至迄入用之訖，右与八江相断差図を請相調可申事，尤相調候ハ、其品を相改直キニ買物帳通帳共印形相印可申候，右印形無之品ハ払申間敷候

一朝夕賄入用之品，随分門ト売物を相調可申候，八百屋にて相調候事無用，其内無扨急入用之節ハ見世ヘ相断，八百屋にても相調可申候

一おとみ始，仁右衛門，利左衛門ハ不及申，次々の者他出之砌は其用事を申，与八より指図を請他出可被申事

一仏參之節，おとみ，仁右衛門，利左衛門，おいさ四人之内壺人ハ急度留主可被致候，何程太切之事ニ而茂家内明ケ他出被致候而ハ，却而御先祖方御思召ニ相叶不申事

一所々志并遣物諸祝儀等，右与八江相尋差図を請，右ニ順し内場ニ取斗ひ可被申事

一おとみ，おいさ，台所庭廻り見ヘ候処ニ而随分仕事被致，勿論台処庭廻り猥ニ相成不申様并費ケ間鋪薪物朝夕氣を附可申事

附り，仁右衛門，利左衛門ハ不及申何れ茂相揃，台処ニ而飯たヘ可申事

一朝夕三度膳部相認候儀，野菜不及申銘々望事かたく無用之事

一下女等心安ク遣候ては不メリニ相成候，勿論若キ下女ニ而ハおのつから不メリニ候間，年ケ間鋪下女を抱可被申候，勿論さん之外下女二人もり壺人之外過分ニ置候事無用

一おとみ，おいさ，おミを三人共，手廻り小用ハ随分自身に相叶可申候，下女ハ洗度物針仕事之儀，随分引廻シ可被申事

一諸方到来物之儀，仁右衛門，利左衛門引請，おとみ，六兵衛，与八早速相達シ帳面ニ留置可被申候，尤遣処有之候ハ、，右兩人ニ相尋早速指遣シ可被申候，尤手前ニ而遣候ハ、，工免能遣可被申事

一利左衛門，仏檀掃除御花上ケ可申候，若利左衛門用事之砌ハ，仁右衛門相勤可申事

一おとみ，仏様香もり御膳茶湯御忌日氣を付可申事，多用之節ハおいさ，おミを之内相勤可申事

一座舗平生遣候儀、間広く何角ニ付費多ク候間、奥之間口六疊共疊上ケ置、常は遣申間舗候、尤仏事相勤候節ハ格別之事

附り、平日何ニよらす品々取出し置候事、家内見苦敷候品相互ニ氣を付ケ被申随分諸事方付置可被申事

一正月十月戎講中之間にて相務可申事

一風呂之儀、湯わき候ハ、上分々早速ニ入、明キ次第追々入、暫くも明ケ置申間敷候、万一無滞用事有之候ハ、次々直ニ入可申候、下々迄同様ニ早ク入、五ツ限仕廻可申候、遅ク相成候得ハ、火之用心悪舗候間、随分早ク仕廻可申候、此儀仁右衛門氣を附ケ可被申候、勿論くど風呂之下庭廻り火の元氣を附相休可申候、若仁右衛門用事之節ハ利左衛門へ申置、右相勤させ可申事

一仁右衛門儀、屋ねの掃除屋ねのもれ樋之つまり藏之窓、右躰之類見廻り相滞有之候ハ、早速直させ可被申事

一居宅并掛屋舗繕之儀は、格別普請之義江舩へ相尋可申事

一御先祖御影ニ而今日無恙相暮候上ハ、銘々難有存諸事一分身之廻り慎候て、万端出情被致幾久、家内繁栄致候儀専一ニ候、依之此度先々家風を以、右之通申渡候間、太切ニ相守可被申候、以上

安永三年午八月

西川利右衛門

代 平井伊兵衛

西川徳藏

西川庄六

右者毎月秀応居士忌日十七日御退夜後、仁右衛門為読聞可申事、若十七日差支有之候ハ、了岸様御退夜後為読聞可申候、若仁右衛門指支有之候ハ、利左衛門為読聞可申事

〔史料3〕

添掟書

一帳箱役

後見引請
支配人兼帯

一後見金銀錢一切仕入方并両替屋通引請相勤可申事、尤見世入銀鍵引請入金銀口々入帳を引合致合判請取可申事

一為替手形振手形引請、但し後見支配人両印ニ而相勤可申事

一後見金銀錢払方之引当を以支配人江相渡し印形取置可申事

一後見平日払方帳面吟味致し算当り自筆ニ而メくり可致候、勿論手形帳を引合請取印形相改

- 払方帳面と無相違候ハ者、見届口々合判可致事
- 一支配人金銀入帳と掛帳引合消判可致候事
- 一節季々々掛取之儀者、東西南北入替相廻し候儀、前晩後見差図いたし可申事、勿論相滞候方者、誰にかきらす致指図催促可申付事
- 一青莚縁仕入之儀、二番目役相勤可申事、尤二番目手ばり候節者、縁仕入之儀支配人出勤いたし可申候、帳面者其時々工免ニより後見支配人引請、毎月代呂物荷合為致可申事、尤平日直入有之節者、暮方に罷帰り直組之様子荒増相談いたし、又々出勤可申事
- 一青莚割方参候ハ者、積口知らへ、送状差出し候ハ者、支配人江刻書相渡し、支配人買帳江付可申事
- 一家内仕着物者勿論、其外切等にても支配人差図を請拵可申事
- 一後見見世小払帳面吟味いたし、算当り毎月指引可致事
- 一押切判之儀、後見支配人兩人引請ニいたし、金銀錢請取印形いたし可相渡事
- 一帳箱役諸代呂物出入吟味可致候、尤帳面に付不申内者、譬者一枚縁片すじニ而茂出し候儀堅無用之事、并平日家内蔵之内見廻り可申事
- 一支配人金銀錢一切払方引請、後見指図を請相払可申事、尤判合之儀者、後見吟味之上合判可致事
- 一帳箱平日掛帳送り物帳相改、残銀ニ相成候ハ者、随分催促可申付事
- 一支配人入帳致吟味算当り無相違候ハ者、自筆にてメくゝりいたし可申事
- 一江苧江戸番状支配人相認メ、後見二番目書判致し可申候、勿論書状落印無之筈、万一無拠他出之砌者、其断可被申越候事、尤仕入銀入用之砌者、其仕入物之訳江苧江通達可被申事
- 一月勘定者、是迄之通後見支配人立合相勤可申候、両替屋通手前帳面と引合判合可致事、尤有金銀者支配人直に手ニかけ相改メ可申候、尤当時入用無之金銀者随分江苧江為指登可申事、并月勘定指引書毎月江苧江為登可申事
- 一支配人備後国仕入引請にいたし、後見始メ次々之者江相談致し位切等無之様執斗可申儀、表造り口引請之者江得と可申付候、尤荷物入込手ばり候砌者、一統申合手伝可申事
- 一売先之儀地方田舎廻り支配人引請、増掛に相成不申様氣を付、地方之儀者次々之者江申付、随分掛取減し可申候、并江戸尾苧得意先二番之者江引請させ、書状相認メ支配人三番目江見せ、家内一統承知可有候、尤状日手廻り不申節者、支配人三番目手伝可申事
- 一支配人売帳を掛帳入いたし、二番と判合可致事
- 一支配人町用并仲間用、其外無拠用事有之他出之砌者、後見江其断を申出勤可申事
- 一三番目見世小払役并過書町表仕入、後見支配人指図を請相勤可申候、勿論代呂物相調候ハ者、支配人江相達直ニ買帳江付可申候、尤蔵入之砌者銘々直組入札いたし見可申事
- 一得意先荷作之儀者、三番目之者引請相勤可申候、尤手ばり候節者、支配人二番目之者操合いたし、相勤可申事

家内一統之事

一夜ニ入他出無用之事ニ候、無扨用事有之節者、帳箱江相断出勤可申候、尤四ツ時前に帰宅可致候、万一難通用向ニ付、刻限延引可致儀に候ハ者、罷歸り帳箱役承知之上、出勤可申事
一毎夜四ツ時人数相揃相休候砌、着当之心にて帳箱兩人之衆江挨拶いたし相休可申事、万一断無之他出いたし候者、刻限延引及候ハ者、帰宅いたし候迄帳箱兩人之内一人相待着当を請相休可申事

一平日用事無数節ニ而茂、見世無人甚見惡敷候間、随分見世江出勤可申候、譬いか様之用事御座候共、兩人宛者急度相詰メ可申候、勿論毎夜見世江相揃仕入方売先之相談專一之事候

一諸注文申来り候ハ者、早速注文帳に写し置、譬少分之事に候供、随分大切に相勤可申候事

一仕入物蔵入并諸注文荷作り之砌、無怠り一統ニ見分可致事

一前々ろいたし来り候商売之外、新規之儀不寄何に一切相成不申候、譬利分目先きに見江候儀有之候供、堅無用に候、此儀相互に吟味いたし、万一聊之儀にて茂、左様之品有之躰に相見江候ハ者、誰不限早速本店江文通いたすべく事

一先年相勤居候者有間敷筈之金銀相貯所持いたし候類有之候、右躰之儀至而不届に候、若向後訳相立候金子有之候ハ者、帳箱兩人江相断預り所江記置可申候、一分に所持いたし候儀、私欲同前事

附り、番船杯付候儀又者諸勝負堅無用ニ候事

右之通本掟書と一所に毎月九日夜人数相揃、二番目之者読為聞可申候、若九日夜無扨指支有之候ハ者、十日夜読為聞可申候

右ケ条趣意を以相勤被申候得者、当店永代工面能可致相続候、然ル上者、第一世間之名聞に不迷銘々生得分限を不失可成たけ者、身を引下ケ随分相慎候而、相互に和合之上深切に出情候得者、順々立身無滞相続可致候、此趣先代より御苦勞に被成置候ニ付、今般相談之上相企候間、銘々無間違可被致承知候、仍而如件

天明二年寅五月

西川利右衛門[㊟]

岡田吉兵衛[㊟]

中嶋彦兵衛[㊟]

北村忠兵衛[㊟]

嶋田茂八[㊟]

大坂店中

〔史料4〕

掟書

一御公儀様御法度之儀者不及申、第一火之用心之事

一金銀錢一切入払方并両替通 □ □ 引請相勤可申事、尤見世入銀鍵後見兩人引請入金銀口々入帳引合致合判請取可申事

一為替手形引請、但し押切判ニ而是迄之通相勤可申事

一平日入払帳面致吟味算用当り立合ニ而、自筆メくゝり可致候、無相違候ハ、見届ケ口々合判可致事

一二季勘定并節季勘定兩人立合之上相調へ、江劔江為相登可被申候事

一呉服物并諸買物其時々通帳江改メ印鑑為致相調へ可被申ハ、且其品々後見承知致居可被申候事、尤五ヶ年之内諸事儉約可被致候事

一後見兩人小払帳面致吟味、算当り節季々々指引可被致事

一支配人金銀入帳と掛ケ帳と引合セ消判可致事

一節季々々掛ケ取之義者、是迄之通相廻し候義前晚後見差図可致事、勿論相滞御方者、誰かぎらず致差図催促可申付事

一青莖縁仕入之義、支配人相勤可申事、尤支配人手張り候節者、二番目致出勤可申候、帳面者其時之工免ニより、後見支配人引請、毎月代呂物荷合為致可申事

一青莖割方参り候ハ、積口相知らへ送り状差出シ候ハ、後見江割書相渡シ後見買帳江付可申事

一押切判之義、後見支配人兩人引請ニいたし、金銀錢請取印形いたし可相渡し事

一後見諸代呂物出入吟味可致候、尤帳面ニ付不申内者、譬表一枚縁片筋ニ而茂出シ候儀堅無用之事

平日家内蔵之内見廻り可申事

一江劔書狀支配人相認、後見書判いたし可申候、勿論書狀落印無之筈、万一無拠他出之砌者、其断可被申越候事

一支配人表方諸仕入引請にいたし、後見始メ次々之者江致相談、位切等無之様執斗ヒ可申儀、表造り江引請之者江得と可申付候、尤荷物入込手張り候砌者、一統申合せ手伝可申事

一支配人売帳を掛ケ帳入いたし、二番目と判合可致事

一支配人仲間用其外無拠用事有之儀出之砌者、後見江其断ヲ申出勤可申事

一見世小払役之義ハ、見世工面ニより見斗ヒ相勤□□可申事

一売先之儀地方田舎廻り支配人引請、増掛ケ等相成不申様氣ヲ付、地方之儀ハ次々之者江申付、随分掛ケ取減し可申候事

付り、諸方取引先之儀ハ、是迄之通相勤可被申候

一得意先荷作之儀者、支配人引請相勤可申候、尤手張り候節者二番目三番目之者操合セ相勤可

申事

家内一統之事

一毎夜見世之者壹人子供召連レ表裏家内しまり并台所火之用心夜廻り相勤可申事

一日々上下打揃イ食事可致事

一夜ニ入他出無用之事ニ候、無拋用事有之節者、後見江相断出勤可申候、尤四ツ時前ニ帰宅可致候、万一難通用向ニ付、刻限延引可致義ニ候ハ、罷歸り後見承知之上出勤可申事

一毎夜四ツ時人数相揃相休ミ候砌、着当之心ニ而後見兩人之衆中江挨拶いたし相休ミ可申事、万一断無之他出いたし候者、刻限延引ニ及候ハ、致帰宅候迄、後見兩人之内壹人相待着当ヲ請相休ミ可申事

一平日用事無之節ニ而茂、見世無人甚見苦敷候間、随分見世江出勤可申候、譬いヶ様之用事有之候共、兩人宛急度相詰メ可申候、勿論毎夜見世へ相揃イ、仕入方売先之相談専一之事ニ候一諸注文申来候ハ、早速注文帳ニ写シ置、譬少分之事ニ候共、随分大切ニ相勤可申事

一仕入物蔵入并諸注文荷作り之砌、無怠り一統ニ見分可致事

一前々ろいたし来り候商売之外、新規之儀不寄何一切相成不申候、譬利分目先キに見江候儀有之候共、堅無用ニ候、此儀相互ニ吟味いたし、万一聊之儀ニ而茂左様之品有之躰ニ相見江候ハ、誰不限早速江弐江文通可致事

一右掟書毎月十五日夜人数相揃、支配人読為聞可申候、若十五日夜無拋差支有之候ハ、十七日夜読為聞可申候事

右ヶ条趣意ヲ以相勤被申候得者、当家目出度相続可致候、然ル上者第一世間之名聞ニ不迷銘々生得分限ヲ不失相互ニ和合之上深切ニ出情候得者、順々立身無滞相続可致候、此趣御先代より御苦勞ニ被成置候ニ付、今般相談之上相企候間、銘々無相違守り可被致承知候、仍而如件

文化三年寅五月

西川利右衛門

西川徳蔵

西川利左衛門

西川庄六

山田作助

辰巳治助

西川仁右衛門

後見兩人 見世中

〔史料5〕

(表紙)

「掟書」

一御公儀様より被仰出候御法度之儀者不及申、家内火之用心大切ニ相守可申事

一後見帳箱役奥鍵預り并仲間用兼帶相務可申候、仲間用相勤申候節者、支配人帳箱役相務可申事

一町用仲間用支配人出勤申候儀、帳箱役を指図次第相勤可申候、尤其時之品を帳箱役出勤可申事

一支配人勘定取組可申事、尤書状毎月二六用事無之候共、急度指出シ可申事

一諸帳面三番目之者へ上ケ致シ、二番目江差出シ可申事

一二番目諸帳面引請算当り致、支配人江差出し可申事

一見世現金帳毎夜算用之儀者、為致元服間々無之者ニ為致算当り、三番目之者相改メ相違無之候ハ、へ上ケ印形致シ置可申候事

一諸注文直仕入之儀、見世引請之者を状日毎ニ、注文帳水揚帳諸国を積出シ無之品々致吟味、二番目之者相談之上支配人江指出シ帳箱役支配人差図を以注文差遣シ可申事

一年頭五節句御礼之儀者、支配人斗相勤可申候事

一帳箱役之儀、昼夜共如何様之用要出来候共、帳箱江忝人宛者急度相詰メ、諸事吟味可致候、大帳付込帳共帳入可致事

一後見金銀引請、奥鍵預り一切入金銀取帳江相記、請取印形致置可申事

一貳番目之者、金銀諸諸方一切引請相勤可申候、尤為替金銀諸仕切小買物等迄、諸方貳番目支配人印形を以、後見より金銀請取諸方可致事

一奥勘定毎月二日相勤可申候、尤諸帳面三番目之者へ上ケ致シ、貳番目之者算当りいたし無相違候ハ、支配人江指出シ可申候、尤後見支配人貳番目立合奥有金銀諸証文引合可申事

附り、右月勘定出来候ハ、毎月江州江為差登可申事

一見世小払五匁以上之金銀者払申間敷候、但シ下り運賃小買物等見世を払可申事

一諸代呂物出入之儀、平日間違不申様互ニ相改可申候、御屋鋪方御用之品者不及申、町方用向現金売共、譬表枚紋縁片筋ニ而茂、帳箱役江相断、帳面ニ付不申内者、如何様急御用ニ候共、決而出シ申間敷候、尤現金売直段相極り候ハ、請取書相認帳箱役江相渡押切印形を請取帳相記し、金子代呂物引替ニ相渡可申候、尤見世押切判之義帳箱預りニいたし置、次々之者取扱無用事

一節季掛取之儀南北入替相廻し可申候、尤前晚支配人より差図可申付事

一入金大帳消判支配人可致事

一御屋鋪方町方御用之儀申来候節、間違不申様早速拵遣シ可申候、勿論急御用之節者、不限昼夜取込入念、縦少分御用候共、無遅参拵遣し可申事

一勘定出来候ハ、後見支配人式番目三番目替り々々年ニ壹度宛罷登り可申候、尤四人者年々勘定相互ニ致承知罷登り可被申候、於本店諸事及面談可申候、次々者五年目位順々登可申事

一毎日早朝夕見世之者相揃、戸明帳箱等飾り可申事

一御屋舗方相勤候儀、如何様之御用有之候共、七ツ時限り帰宅可致候事、町方用向迎も右同様事、万一無扨用要有之刻限及延引候ハ、罷歸り帳箱役江其断可申事

一夜ニ入他出無用候、帳箱役兩人具ニ致承知候上之義者其時之工面ニ之他出可申候、四ツ時限り帰宅可申事、尤御屋舗方町方共、平日出勤先々帳箱江相断罷出可申事

一平日四ツ時人数相揃相休可申候、尤着当之心持ニ而帳箱兩人之衆江挨拶可申達候事

一諸御屋舗方御役人衆町方共、商ひ先キまいない致シ候事、亦者遊所江同道致候事、堅無用ニ候、万一無扨品ニ候ハ、帳箱兩人相談之上取斗可申候、尤及数度候ハ、品能御断相止メ可申候事

一稽古之儀、不寄何一切無用ニ候、尤手跡之義者格別、碁将棋夜ニ入手透之砌、手前ニ而者不苦、他所ニ而者無用候事

一為替金銀手支当座借貸之儀ハ、其時工面ニ之相談之上取斗可申事、尤金子溜り次第片時茂早ク返済可致事

此外金銀当座貸借堅無用候、勿論歩銀等相加へ貸借致候儀者、本店江無断取替候儀、決而無用之事

一江戸ニ相勤居候而暇遣シ候者、自然江戸江罷下り候共、本店之指図無之者出入為致候義堅無用候、勿論江州大坂ニ而暇遣候者并ニ出入筋之者ニ而も右同前之事

一衣類之義者、此度相改メ、銘々相応ニ相極メ置、則別紙仕法書遣シ置候事

一銘々登り之節在所江土産物之義江弔ニ而拵遣シ可申候

一上方江出足之節、見送り之儀外之不及申、家内之者ニ而も無用ニ候、尤其品ニより男傭人品川板橋迄召連可申候、并暇乞ニ相廻り候節、出足之定日不定置相廻り可申候、左候得者、錢別等無之筈ニ候、尤上両三人之義ハ表向用茂有之候故、無扨義者右ニ順し内場ニ取斗可申候

一前々之致シ来り候商売之外、新規之義不寄何一切相成不申候、譬利分目先キニ見江候儀有之候共堅無用候、此儀者相互ニ吟味いたし、万一之儀ニ而茂、左様之品有之躰ニ相見江候ハ、誰ニ不限早速本店江文通可被致候事

右ケ条之趣意を以相務被申候得者、当店永代工面能可致相続候、然ル上者第一世間之不迷名聞、銘々生得分限不失可成たけハ、身を引下ケ随分相慎候而相互ニ和合之上深切ニ出情候得者、順々之立身無滞可致相続候、此趣先代より御苦勞被成置候ニ付、今般相談之上相企候、銘々無間違可被致承知候、仍而如件

文化六巳年五月

西川利右衛門㊤

山田作助㊤

江戸芝店中

〔史料6〕

(表紙)

「掟書 下書」

掟書

一從御公儀様被仰出候儀、太切ニ相守可申事

一火之用心太切ニ相守可申事

一帳箱役後見引請、并ニ支配人兼帶相勤可申事、後見他出之節ハ行先々支配人江断、支配人始メ次々之者ニ至迄行先々帳箱江相断可致他出候、尤帳箱明置候茂堅相成不申候事

附り、見世小払之儀帳箱役引請相勤可申事

一得意方并諸方々来り候手紙書状之類、誰ニ不限請取候ものゝ直ニ帳箱へ相渡シ、帳箱役封ヲ切披見いたし、夫々名当之者江相渡シ可申事

一後見金銀一切入方并両替屋通引受相勤可申事、尤見世入銀鍵引請入金銀口々入帳を引合致合判請取可申事

一為替手形振手形引請、但シ後見支配人両印ニ而相勤可申事

(附箋)

「但シ、右手形類両印ニ而相勤可被申之處、當時都合ヲ以一判ニ而相勤可被申旨相届ケ被申聞候事」

一後見金銀錢払方之引当を以支配人江相渡シ、印形取置可申事

一後見平日払方帳面逐吟味致算当、自筆ニ而メくゝり可致候、勿論手形帳を引合請取印形相改払方帳面と無相違候ハ、見届口々可致合判事

附り、從本店差図無之金銀錢貸借一切無用ニ候事

一支配人金銀入帳と掛帳引合消判可致候事

一節季々々掛取之儀者、東西南北入替相廻シ候儀、前晚後見差図いたし可申事、勿論相滞候方ハ誰ニかぎらず、致指図催促可申付事

一青蕤仕入役之儀ハ其時々工面ヲ以本店々可申付候、尤帳箱役々差図いたし、毎月代呂物荷合為致可申事、平日直入在之節ハ暮方ニ罷歸り、直組之様子荒増相談いたし、又々出勤可申候事

一仲間用其外出役之義ハ、勤番後見之内ニ而相勤可申事

一青蕤割方参り候ハ、積口相知へ送状差出候ハ、支配人江刻書相渡シ支配人買帳へ付可申事

一家内仕着物者勿論、着用身之廻り何ニよらず、支配人差図を請拵可申事

一押切判之儀、後見支配人兩人引受ニいたし、金銀錢請取致印形可相渡事

一帳箱役諸代呂物出入可致吟味候、尤帳面ニ付不申内者、譬表壺枚縁片筋ニ而も出し候儀、堅無用之事、并平日家内藏之内見廻り可申事

一支配人金銀錢一切払方引請後見指図を請、相払可申事、尤判合之儀ハ後見吟味之上可致判事

一帳箱平日掛帳送り物帳相改残銀ニ相成候ハ、随分催促可申付事

一支配人入帳致吟味算当り無相違候ハ、自筆ニ而メくゝりいたし可申事

一江羽江戸番状支配人相認メ式番目迄致書判可申候、勿論書状落印無之筈ニ候、万一無拠他出之砌ハ、其断可被申越候事、尤仕入銀入用之砌者、其仕入物之訳ケ江州江通達可被申事

一月勘定之儀後見支配人立合相勤可申候、両替屋通手前帳面と引合判合可致事、尤有金銀ハ支配人直々手ニかけ相改メ可申候、尤当時入用無之金銀者随分江羽江為登置可申事

一支配人備後国仕入引請ニいたし後見始メ、次々之者江も相談致し、位切等無之様執斗可申儀、表造り口引請之者江得と可申付候、尤荷物入込手バリ候砌ハ、一統申合手伝可申事

一売先之儀、地方田舎廻り支配人引請増掛ニ相成不申様氣を付、地方之義ハ次々之者へ申付、随分掛取減し可申候、并江戸尾州得意先式番目之者引請させ、書状相認メ、支配人三番目江為見家内一統承知可有之候、尤状日手廻り不申節者、支配人三番目手伝可申事

一支配人売帳を掛帳入いたし、式番目を判合可致事

一得意先荷造之儀ハ、式番目之者引受相勤可申候、尤手バリ候節者、支配人三番目之者操合いたし、相勤可申事

家内一統之事

一昼夜ニ不限無断我儘ニ他出いたし候儀堅相成不申候、別而夜ニ入他出無用ニ候、無拠店用在之候節ハ、帳箱を差図いたし可申付候、尤毎夜四ツ時ニ人数相揃相休候砌、着当之心ニ而帳箱へ致挨拶相休可申事

一平日用事無数節ニ而も、見世無人ニ而ハ甚見苦敷候間、随分見世へ出勤可申候、譬いか様之用事有之候共、兩人宛ハ急度相詰可被申候、勿論毎夜見世江相揃仕入方売先之相談専一之儀ニ在之候事

一諸注文申来り候ハ、早速注文帳ニ写し置、譬少分之事ニ候共、随分大切ニ相勤メ可申候事

一仕入物蔵入并諸注文荷作り之砌、無怠一統ニ見分可致事

一前々をいたし来り候商売之外、新規之儀不寄何ニ一切相成不申候、譬利分目先ニ見へ候義在之候共堅無用ニ候、此儀相互ニ致吟味、万一聊之義ニ而も左様之品有之躰ニ相見へ候ハ、誰ニ不限早速本店江文通いたすべく事

一自分ニ金銀相貯江所持いたし候類在之間敷、至而不届ケニ候、若訳合相立候金銀在之候ハ、帳箱役江相断預り所へ相記し置可申候、一分ニ所持いたし候義、私欲同前ニ在之候事

附り、番船杯付候義、又者諸勝負かたく無用ニ候事

一掟書毎月九日夜人数相揃式番目之者为読聞可申候、若九日夜無拠差支在之候ハ、十日夜為読聞可申候、尤掟書承候内ハ主人之直談より重く相心得、一統相慎承り可申事

右ヶ条趣意ヲ以相勤被申候得ハ、当店永代工面能可致相続候、然ル上ハ第一世間之名聞ニ不迷、銘々生得分限を不失可成丈ハ身を引下ヶ、随分相慎候而相互ニ和合之上深切ニ出情候へハ、順々立身無滞相続可致候、此趣御先代ノ御苦勞ニ被成置候ニ付、今般相談之上書改候間、銘々無間違可被致承知候、依而掟書如件

文政九丙戌年四月

西川利右衛門 実印

野田善六 実印

三浦弥重郎 実印

大坂店中

〔史料7〕

(表紙)

「掟書」

掟書

一従御公儀様被仰出候儀者、勿論店作法大切ニ相守可申事

一於其店修行中主介分之心持格式共相放れ、可相成丈ヶ身分引下ヶ不寄何事、手代分同様用向相務可申事

一商内躰万事懸ヶ引等之儀見習相覚江算考第一肝要之事、夜分手透之砌ハ、手習読書之儀ハ稽古可然存候、当人相望ニ候ハ、相応之師範ヲ取寄セ為致稽古可被申候、其外遊芸之儀ハ一切無用ニ候、尤商売向修行大躰相調候上之儀ハ可為格別、当人相望候儀在之、其元ニ而も不苦被存候ハ、本店へ可被申越候、其節相考可及差図候事

一着座順席之儀ハ、支配人之次式番目之上席ニ可在之候、尤式番日本役之儀ハ、多年勤切ヲ以相勤候義在之候得ハ、自分心持之處ハ式番目次々之心持ニ而、諸事相慎相勤可申事、乍去追々年数修行相調候而、式番日本役尚支配役迄茂相進ミ相勤可申義ハ、銘々器量次第ニ候、其節者諸事可為格別事

一平日着用之儀ハ、絹青梅之類ハ勿論、綿服ニ而も目立候品ハ不相成候、猶平日絹帶ノ候義ハ決而無用ニ候、下帶之儀ハ木綿ニ限り可申候、きせる煙草入之類も目立候品ハ不相成候、為他行之節共青梅嶋糸入嶋ヶ宜敷品ハ無用ニ候、羽織之儀ハ夏ハ絹小紋冬ハ兜羅綿亦ハ染太織より宜敷品ハ不相成候事

一貴殿達ノ差図無之候節、他行一切不相成候、尤致他行候節ハ、老分之内老人同道可在之候、若キ手代向同道他行之儀ハ無用ニ候、上方往来之節も可為右同様事

一朝夕仏神様信心ヲ以拝礼可在之候、御先祖様方御忌日精進之儀ハ勿論、諸事大切ニ相慎可申事

一平日食事養生専一ニ可在之事、灸治月々兩三度斗茂無懈怠相務可被申候、自然病氣ニ取敢候而ハ、其身不自由迷惑之上、其表ニ而も懸心配甚不都合千万之儀ニ可在之候得ハ、常々自分ニ氣ヲ付可致養生事

一店之儀ハ、商売方専一而已之事ニ在之候得ハ、万事其心得可在之候、見世先忤ニ而不都合之儀有之候而ハ、店中不行届之様相見へ御得意方氣請ケニも相拘り可申候得ハ、呉々可為大切事

一帳箱之儀本店々立置候役場ニ在之候得ハ、大切ニ心得外見無礼無之様可致事

一貴殿達役中々差図被申候義ハ、我等直談同様ニ有之候得ハ相慎、承知之上不寄何事無違背差図之用要大切ニ相務可申事

付り、当人入情ニ応し、其元相談之上可然役目差図可被申付事

一当人出府中諸入用之儀ハ、其店入用相除キ忤季勘定之節取替可被申登候、尤諸事手輕ニ取斗可被遣候、修行未熟之内入用多分在之候而者、当人不為之義ニ在之候得ハ、万事实意之取斗致可被遣事

付り、金銀取替之儀可為無用事

右之条々得と相守可申候旨、猶其余ハ右ニ順シ可然取斗可在之候、尤当人生涯之治リニ相成候、修行ニ在之候得ハ、一同実意ヲ以嚴敷引廻シ、何ケ修行相調候様致被遣度候、自然貴殿達遠慮忤之義有之、忽セニ相成候而ハ大ニ不為之儀ニ在之候、都而当人茂行年之上ニ而ハ致後悔、其元達不行届之様存ものニ候得ハ、能々勘弁被給万事為筋ニ相成候様取斗被遣度様呉々存事ニ候、右修行下向之銘々勤方掟書依而如件

天保八丁酉年九月

本店

江戸店 後見支配中

〔史料8〕

(表紙)

「箇条書」

毎月壹度宛可致披露事

一從御公儀様被為仰出候、御法度之儀者不及申、家風急度相守大切ニ相勤メ可申事

一火之元相互ニ氣を付可申事

一勤役之銘々毎朝五ツ時無遅参出勤可申事、無抛要用有之候節者其旨相断届ケ可申出候、尤引取毎夜五ツ時泊り番之者入代り可申事

一毎夜勤番之内壹人宛泊り番相勤可申候、尤泊り当番之者無抛要用有之候共、操合せ無懈怠五ツ時急度出勤可申事

一支配人相勤候金錢諸払帳面ニ書記し、後見役衆ヲ為見届其時々印形請置可申事
一毎月五日迄之中、工面次第致月勘定メくり、後見役之者算当いたし有金錢立合之上、取しらへ改印致置可申事
一纏布表仕入諸事渡し金之後、甲之判取帳払帳面と引合、後見役之者可致改印事
一諸品喰切勘定之節、残り有代呂もの名前入并後見役之者立合見改メ可申事
一見世若きもの下男ニ至まで、昼夜ニ不限他出之義無用之事、併無要有用之節者、行先キ後見役之者江相断可致他出事
一毎朝明六ツ時開店可申候、毎夜四ツ時限り見世一同為相休可申候、尤泊り番之者江着到之心持ニ而挨拶可申達事
右ケ条之趣御先代々御苦勞被成下置候処、近年等閑ニ相成候故、今般相談之上書改申候、然ル上者一統致承知、和合之上実意を以銘々出情相勤可申候、且世見之名聞不迷性徳分限不失可相成丈、身を引下ケ相慎出情相勤候得者、順々無滞可致立身、仍如件

天保十二丑九月

西川延治郎

野田善六

大澤又七

店衆中

〔史料9〕

掟

一近年江戸店大坂店互ニ実意不成取引被致候儀、御先代々被立置候御仕法茂相背、世間外聞ニも拘り候義、銘々心得違之段一向相済不申候ニ付、向後仕法左之通り
一江戸両店表類青蔴緑布類注文高之内九歩大坂店江、壹歩△江其外他家江注文ハ不申及、送り物等ニ至迄一切引請申間敷候、尤備中表之義者、其年々振合ニまかせ少々ハ国仕入被致候而可然哉相成り候ハ、国仕入相止メ可申事
一太物類小間物類大坂仕入之分、大坂店之外仕入致間敷候、尤京都大坂辺ヲ出候品者、江戸店ヲ大坂店江被申遣、大坂店ニ而仕入元吟味之上相調積入可申事
一本店仕入之分ハ不及申、江州辺ヲ出候品者本店江可被申越候、随分世話致遣シ可申候、其外東国ヲ出候品者不及申、勢羽尾羽辺ヲ出候品者江戸表ニて直仕入可致候事
一大坂店表類青蔴緑布并太物小間物類ニ至迄格別相改不都合無之様出情積入可申事、尤京都大坂辺より出候品江戸表ヲ差図之通実意を以取次世話可致候、諸品相庭高下之砌ハ、互ニ早速文通可致候事
右之通申渡し候上者、銘々心得違無之様承知可有之候、以上

寛政十一歳未六月

西川利右衛門 在印

山田作助 在印

大文字屋嘉兵衛殿

近江屋八左衛門殿

伊勢屋大助殿

右之通仕法被立置候所、追々役替ニ付近年猥ニ相成候故、今般相談之上相改候条、仝休店ニ相成候ニ付、大坂店一手ニ注文可致候事

一備中表之儀外仕入被致候得共、向後何表ニ不限国仕入之儀ハ不及申他家江注文ハ不相成候、其外送り物等ニ至迄一切引請中間敷候、右申渡し候上者銘々心得違無之様急度相守可被申候、以上

天保十五歳壬寅

西川利右衛門㊤

野田善六㊤

大澤亦七㊤

中嶋彦兵衛㊤

右被仰付候御掟書之趣御尤奉承知候、向後心得違無之様急度相守可申上候、依之連印如件

江戸店 勤番 重高善助㊤

後見 森半兵衛㊤

支配人 麦野嘉兵衛㊤

二番目 村東佐兵衛㊤

大坂店 勤番 山野松兵衛㊤

後見 木村瀬平次㊤

支配人 伴定助㊤

二番目 梅村林兵衛㊤

西川利右衛門様

野田善六殿

大澤亦七殿

中嶋彦兵衛殿

〔史料 10〕

(表紙)

「明治十八年西九月

大坂店仕法書」

仕法書

一木原殿借入金之儀ハ掛屋敷ヲ以仕払可致候事

一毎日見せ鋸之儀ハ、上店のふれんかけ可申候事

但、仕法中ニ付、下見せハのふれん無用メ切之事

一毎日家内喰事之儀ハ、三度とも弁当ニ可致候事

但し、壺人前弁当代

右弁当ニ取極メ申候、左候得者、飯時分茶わかし候外ニ煮物ハ無之筈之事

一氏神御祭礼之節ハ、可成丈ケ儉約致シ、御神事相営可申候

一店神仏様之儀ハ、是迄之通り相守り可申候、乍併可成丈ケハ儉約可致候事

一家内之者、平日御酒戴キ候事ハ堅無用、乍併毎月一日十六日廿八日右三日斗御神酒戴キ可申候、肴ハ手輕之品有合物ニテ

客来之節ハ此限りニアラズ、成丈ケ儉約ヲ以取賄可致候事

一客来有之飯時分ニ相成候得ハ、弁当取寄賄可致候事

一客人并ニ荷主衆ト同道ニテ、他出致候儀ハ仕法中ニ付かたく無用之事

一客人并ニ荷主衆ト無余儀事ニ付、同道他出致候とも途中之支度入費之儀ハ、自費ヲ以仕払可致候事

但し、勤役之者ニ而も右同様之事

一店商用ニテ他出致候節、飯時分ニハ帰店可致候、自然引合等有之刻限延引致し、途中ニテ支度致候節ハ、帳場へ其断申達シ現金払ニ可致候事

一店仕法中下男ハ無用之事、毎日飯時分ニ茶わかしハ、見せ手透之者茶わかし可致候事

但、風呂たきも右同様之事

一風呂之儀ハ、是迄之通り可致候事

但し、風呂屋へ行事ハ堅無用

一見せ之者半季小払、是迄人格ヲ以取極メ有之候処、自然銘々遣過ニ相成、此度相改小払分増致し遣し候、以来遣過ニ不相成候様可致候事

則分増左之通り

支配人 金 □□

二番 同 □□

三番 同 □□

四番 同 □□

五番 同 □□

子供 同 □□

同 同 □□

右小払分増致候上ハ、以来銘々せんだく賃并ニキセル分を仕替雪踏直しニ至る迄も身之廻り、

万事自費ヲ以仕払可致候事

一医師薬礼并ニ久治料ハ、是迄之通り店ろ仕払之事

一買薬并ニあんま賃とも自費ヲ以仕払可致候事

但、勤役之者ニても右同様之事

一店仕法ニ付、勤役之者へ当座取替貸一切無用之事

但し、見世之者ニても右同様之事

右之通取極メ候ニ付、店一同心得違等無之候様商内向ハ不及申、万端大切ニ相勤可被申候事

明治十八年酉九月

西川利右衛門

川西喜兵衛[㊤]

三浦弥兵衛[㊤]

中村直兵衛[㊤]

曾我石太郎兵衛

北嶋伊兵衛[㊤]

大坂店中

〔附記〕

本稿は、近江八幡市立資料館所蔵の西川利右衛門家文書を用いて作成した。西川利右衛門家文書の閲覧などについて便宜を図って頂いた近江八幡市史編纂室には、大変お世話になった。ここに感謝するしだいである。